

お話の技術(おはなし漫筆の七)

六八

長尾豊

一

専門的な話術者たとへば演説家とか説教家とか降つては講談落語等の職業的口技者以外の話者口演家にもお話の技術として見るべきもの、否聞くべきものが多い。いはゆる童話の實演家の中にも、「技術」と目すべきものがないことはない。けれどもそれを専門的な話術家口技者の技術にくらべると、其の修得の道程なり、錬磨の仕方なりに自から異なるものがあると思ふ。

専門の話術家口技者の場合には技術それ自身が目的で、其の修得や錬磨だけが話術の全部であ

り、それだけが話者口演家の獲得すべき全課程であることさへ考へられてゐる。ひと口に説教師は其の説教の内容を考へないで、落語家のいふ口馴れしたおしやべりのやうに、抑揚から息をつくところまでそつくり同じに數十回繰返すものだと言はれてゐる。かういふお説教がお説教として有難いものかどうかは別として、抑揚から息つきまで同じやうにその位繰返されれば、いはゆる手に入つた藝として耳に快いものと成るに違ひない。又その位繰返されれば息づかひ、態度、たとへば手の置き所、持物の扱ひ方まで十分考へられるに相違ない。

これは或意味から言へば技術の完成であり、口演の絶頂であるかも知れない。併し、絶頂である。登り切つた所が降る所だから、やがてお話口演を墮落に導く第一歩に當るかも知れない。けれども技術としては此所までいけば略々理想に近いと思ふ。勿論それは内容を考へず、お話を口の先だけで只喋る技巧ではなくして、お話と話者と、内容と表現形式の末の末までピタリと一枚になつたところでなければならぬ。

二

かうした技術の修得錬磨の機會が、すべての話者に恵まれてゐるわけではない。専門的なそして職業的な話者口技者には、同一回の口演が其のまゝ技術の錬磨修得に役立つ便宜がある。教育的な話者にも全然かういふ機會がないわけではないが、併し、其の機會を捉へてこれを活用する意氣

や用意において甚だしく缺けるものがあるらしく思はれる。幼稚園以前の家庭でのお話では、しばらく同じお話が繰返される。それも時を置いてではなく、立て續けにひとつ話を數回話させられる。これは一人の話者のもつ話材の數の少ないことにも原因しようが、それよりも同じ話を繰返して聞きたがる幼兒の強い要求によるものである。幼兒がひとつお話を聞いて喜ぶと同時に、話者が同じ話を繰返しながら話に熟すことの出来る機會があるが、大抵の話者は先づ此の場合、「ひとつものばかり話させられて」ウンザリする。もつともこれはひとり家庭に限つたことではないが、此の「ひとつものばかり話させられて」ウンザリすると見えるものが、實はお話に熟し、其の技術に熟することの出来る機縁を包藏してゐるのである。字を書くことを勉強する人は、たくさん字を書かなければ上手にはならない。それと同

時にいくら日々たくさんの文字を書いたにしろ、

習字の氣持で書かなければ上達はしないものと思ふ。お話も其の通りであらう。お話の熟達は多く話すといふことが確かにひとつの方法であるが、それと同時に話について勉強する精神がなければ、いくら日々たくさんのお話をしてもこれに熟することは出来なかうと思はれる。

お話をする前のしらべと共に、した後の反省、それらを書止めて他日の用にそなへることも必要である。ある狂言師は其の日に演じたものを、後でモウ一度演じ返したといふ話を聞いたが、口演前の工夫と共に話役の自省も同様に必要なものである。すべてかういふ事は専門的な話者や實演童話家だけに必要で、教室や保育室における教育的な話者にとつて不必要な事柄ではないと思ふ。今日さういふ教育的な話者は、餘りさういふ事を考へて居ないやうである。考へて居なさ過ぎるや

うである。

三

専門的な話術には其の道の傳統や研究の便宜といふものがある。新らしく起つた童話實演家にはさういふものがなさうである。さういふもの、出来上らないのは當然であるが、仔細に見ていけばやはり専門的な話術を參考とした跡は歴然と見える。只實演家は手に入つた技術よりも其の人達の持ち味といふものがヨリ多く働いてゐる。其の人達の型といふものは其の人達を離れてあり得ない。そこで技術として、話術として學ぶには餘り學び易くない、且又範圍の狭いものであるらしく感ずる。従つて眞似をするにはこれ程たやすいものもないと思はれる。

勿論技術には「師匠に似る」ことや、同じ流儀でも師匠によつて多少の相違の出来ることもある

から、純粹に言へば個人的でない技術はない事になるかも知れないが、併し、技術と言へば誰にも習得出来る筈のものである。お話口演や劇の演出を考へることも、デッサンやピアノを弾くことのやうに習得出来なければ困ると思ふ。此の意味で教育的な話者にとつてだけ必要な技術が研究され、其の範圍が限定されたらば好いと思ふ。容易に習得されないやうな技術なら、少なくとも技術とは言へないだらうし、又さういふ技術の一端でも開示されなければ永遠に出たらめて終るが、ほんの一部の素質のよい人、熱心な人、そして只器用な人達がどうにかかうにか片附けてゆくだけで、大部分はどうして好いか分らずに、只其の日其の日の風次第で終始してしまふだらう。

だが、それはカナリに至難なことである。急いで餘り好ましくないものを拵へるよりも、ゆつくり用に立つものゝ出来た方が好いから、決して急

ぐには當らないと思ふ。今までは今までとして、やはり一最善の進歩は遅々たるもの。」といふ格言通り落着いて事に當つてゆくより仕方があるまい。

来る十一月四、五日に神戸市頌榮幼稚園創立四十年の祝賀式及び記念講演會あり、併せてハウ女史の功業を記念する由。我國幼稚園教育發達の上に記念すべき會である。

法政大學心理學研究室に法政大學附屬兒童研究所が設立された。研究調査と同時に、教育相談部を置いて兩親や學校の先生の實際的相談にも應じると。